



**Data**

監督：松居大悟  
原作：山内マリコ『アズミ・ハルコは行方不明』(幻冬舎文庫刊)  
出演：蒼井優／高畑充希／太賀／葉山奨之／石崎ひゅーい／加瀬亮／菊池亜希子／山田真歩／落合モトキ／芹那／花影香音／柳憂怜／国広富之

### ■■■ショートコメント■■■

◆『花とアリス』(04年)、『シネマルーム4』326頁参照)と『フラガール』(06年)、『シネマルーム12』52頁参照)で私に強烈な印象を残し、近時『東京家族』(13年)、『シネマルーム30』147頁参照)、『春を背負って』(14年)、『シネマルーム33』124頁参照)、『家族はつらいよ』(16年)、『シネマルーム37』131頁参照)、『オーバー・フェンス』(16年)、『シネマルーム38』66頁参照)等への出演が相次ぐ若手のホントの実力派女優・蒼井優が、本作で『百万円と苦虫女』(08年)、『シネマルーム20』324頁参照)以来の単独主演を！そんな本作はタイトルが風変わりなら、街中に拡散されている女の顔のグラフィティ・アートも風変わり。

日本全国の交番所では長い間オウム真理教事件で指名手配されている容疑者らの顔写真が貼られていたが、それと同じように沢井(加瀬亮)が勤務する交番所にグラフィティ・アートによる「MISSING SINCE 2015」「安曇春子(蒼井優)の顔」が貼られているのは一体なぜ？そもそも、本作は何の映画・・・？

◆本作の原作は、1980年生まれ山内マリコが書いた同名の初の長編小説。監督は1985年生まれ松居大悟。そして(単独)主演が1985年生まれ蒼井優だから、アラサー同世代の3人がタッグを組んだのが本作になる。他方、本作のストーリーでは、①とある地方都市に住む27歳の安曇春子、②これまた、とある地方都市に住む成人式を迎えたばかりの木南愛菜(高畑充希)、③リーダー(花影香音)に率いられたJK(女子高生)の少女ギャング団という3世代の女たちが主役として登場する。

春子が勤めている会社の社長(国広富之)からいつもセクハラ(?)を受けている37歳の事務員・吉澤ひろ子(山田真歩)も含めれば、4世代の女たちが本作の主人公。原作者の山内マリコはあくまで女の視点・視線から、4人の女たちを中心とするポップなストーリーを展開させていく。女たちを主人公とするストーリーは当然恋模様(?)が中心だが、さてそれぞれのお相手は？

◆団塊世代の私たちには、本作に登場する少女ギャング団の活躍ぶりはあまりにマンガ的で現実味がない。また、口から先に生まれたような女・愛菜と中学時代の同級生である富樫ユキオ（太賀）や、レンタルビデオ店でバイトをしている同級生の三橋学（葉山奨之）との恋模様（？）はあまりにもドタバタしすぎてとてもついていけない。逆に、アラサーの春子と同級生の曽我雄二（石崎ひゅーい）との恋模様（？）もサッパリ訳がわからない。さらに、ひろ子が社長たちにフランス人男性と結婚すると告白し、快感に浸っている姿も男の私にはサッパリわからない。

ユキオと学はグラフィティアーティストのドキュメンタリー映画を観て、映画に登場する覆面アーティストのバンクシーに憧れ、グラフィティ・アートを始めたが、そのチーム名はアメリカに実在する有名な落書きからとって「キルロイ」と決定。そこに愛菜も加わり、春子の顔とMISSINGという文字を合わせたグラフィティ・アートが街中に拡散していくストーリーが本作のポイントだが、そもそもこのストーリー展開自体が私にはサッパリわからない。こりゃ所詮落書きの類かと思っていたが、一時は津川ジロー（柳憂怜）からその「芸術性」を高く評価されたから、ビックリ。

しかし、そもそもユキオと学に愛菜が加わった3人組の顔を合わせた「会話」とライン上での「会話」に見る、若者言葉と若者しゃべりがイラつくことおびたしい。山内マリコの原作を松居大悟監督の感性で表現したらこんな映画になるそうだが、所詮私には理解不可能・・・。

◆本作のパンフレットには春子、愛菜、女子高生という3世代の女たちが本作で見せる行動を時系列に並べて整理してある。しかし、松居大悟監督はスクリーン上でこれらの行動をあえてバラバラにして登場させるから、12月20日に観た『本能寺ホテル』（17年）のゆったりした誰にでもわかるストーリー展開とは異なり、その関連性は極めてわかりにくい。

春子が一人で車を運転してトイレトペーパーを買いに行くシーンや、会社で事務員として働いているシーンを見ていると、「とある地方都市」で春子も普通のOL生活をしていることがよくわかるのに、春子が行方不明になったのは一体なぜ？また、なぜその行方不明の貼り紙が交番所に貼りだされていくの？

他方、春子の物語と愛菜の物語はそれぞれ「とある地方」が違うから本来接点がないはずだが、ラストシーンの直前に「夢ランド」でハルコ旗を燃やす愛菜と春子が出会うのは一体なぜ？さらに、それに続いて瑠樹を抱いた春子と愛菜と今井えり（菊池亜希子）が遭遇するがこの結末をあなたはどう理解・・・？

2016（平成28）年12月21日記